

OKoTaC 通信 NO.7

2012年10月10日発行

オコタツリ



目次

NPO活動報告 『えほんのひろば』	P2
多文化な子ども@大阪のニュース	P3
『第8回ワールドトーク(多文化スピーチ大会)』		
『こどもひろば初めて体験ツアー』		
国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境(1)	P4
『在日コリアンと就職差別』		
地域の子ども支援教室から⑦ 『トッカビ』(八尾市)	P5
Air Mail メキシコ便り⑦ 『オアハカ』	P6
イベント情報(1)	P7
イベント情報(2)	P8



『えほんのひろば ～いろいろなおはなし、いろんなくにのことは、いろんなともだち!』

9月8日(土)、9日(日)の2日間、西区の大阪市立中央図書館・大会議室をお借りして、子どもゆめ基金助成事業「えほんのひろば」を開催しました。日本語・外国語あわせて13言語、650冊以上の絵本がならぶ会場には、初日からたくさんの方が訪れ、のべ1000人近い来場者がありました。



1日目の「多言語おはなし会」では5言語のネイティブのボランティアに、それぞれの母語で絵本の読み聞かせをしてもらいました。「ノンタン」や「はらぺこあおむし」など日本でもよく知られた絵本の翻訳本から、その国のオリジナル作品まで、さまざまな音(=言語)で語られるお話に、会場一杯に集まった参加者は最後まで熱心に聞き入って暖かい拍手を送っていました。そして、このおはなし会終了後もボランティアさんに声をかけ、展示されているその国のほかの絵本も読んでもらうなど、会場のあちらこちらで交流が生まれていました。

2日目は、「絵本ってこんなにおもしろい♪」と題して、絵本あれこれ研究家・加藤啓子さんに、ことばや文章・年齢にとられない絵本の色々な楽しみ方を、会場を巻き込んだ読み聞かせも挿みながら伝えていただきました。その後、「タイ語を学ぶ会」の協力で「タイ語で『おおきなかぶ』を上演して見よう!」というワークショップが行われ、日本人・外国人、大人・子どもが一緒になって体を使って楽しみながら他言語の響きを体験しました。



今回のイベントには、多くの日本人や外国人のボランティアの方が関わっていただきました。特に「自分の名前を世界の文字で書いてみよう」のコーナーでは、ヒンディー語・アラビア語・タイ語・ハンダール・シンハラ語のネイティブの方々が、親しみやすい雰囲気ですべて丁寧に指導してくださり、とても好評でした。参加者の中には、複雑につながった見慣れない文字に悪戦苦闘しながら、「初めてひらがなを習う外国から来た子どもの気持ちがわかりました…」と感想を言う人もいました。また、八尾北高校に通う中国出身の生徒5名も応援に来てくれました。中国語の絵本を、単語の解説付きで楽しく読んでもくれる優しいお姉さんたちにすっかりなついて離れない日本の子どもの姿も見られました。

今度は私も読み聞かせしてみたいと言ってくれたブラジルの女性や、次回開催するときにはベンガル語の絵本もならべてねと言うバングラデシュ人のお母さんもいました。日本の絵本の翻訳版を初めて母語で読み、子どもが学校で習ったというお話はこれだったんですね、とペルー人のお父さんがうなずいていました。また地元の図書館にこんなたくさんの外国語絵本があったことを知らなかったという声も、多く聞きました。

絵本を自由なスタイルで楽しめる「ひろば」に、多言語の絵本も多く揃えることにより、地域に住む外国から来た親子には普段なかなか目にする機会のない母語の絵本を楽しんでもらい、また日本の子どもたちには、身近な多文化の存在を知ってもらいたい…という今回のねらいは、一定の達成を見ることができたのではないかと思います。

絵本を通じた親子の共通体験や多文化との出会い、母語による発信の機会の提供——。絵本の持つ大きな可能性に気づき、今後の活動へのヒントも見つけることができた機会となりました。(A.N)

『えほんのひろば』に参加して —— (ボランティアスタッフ 南雲陽子)

私は「多言語おはなし会」で、読んでくれる人や話の筋を紹介するお手伝いをしました。中国語、韓国語、ネパール語、スペイン語、そしてベトナム語の絵本を読んでもらいましたが、日本語の「うんとこしょ」が中国語では「ヘイヨウ」だったり、「あおむし」がベトナム語ではかわいらしい「ちゅう・さう・ろん」だったりして、言葉の響きの違いがとても新鮮でした。ペルーの男の子は、家の中で家族と話しているスペイン語で絵本を読んでくれました。普段学校では日本語だけという彼は、とても誇らしい顔で、いきいきと朗読してくれました。またそれぞれの国の作品の中には、その国の習慣や教訓などが織り込まれたものもあり、とても興味深かったです。



優しく温かい表情を浮かべながら絵本を読む皆さんの姿を見て、どこの国の子どもたちもこんな風に絵本を読んでもらうんだろうな、そしてそれはとても幸せなことなんだなという思いがこみ上げました。親から子に、自分たちの「ことば」で、おはなし・文化を伝えていく大切さをあらためて感じました。



『第8回ワールドトーク(多文化スピーチ大会)』

8月29日(水)市民交流センターすみよし北で、「第8回ワールドトーク(多文化スピーチ大会)」が行われました。今年夏は夏休み中の開催になりましたが、例年どおりスムーズな運営ができ、子どもたちの力が発揮できた充実したワールドトークになりました。「帰国した子どもの教育センター校」の母語教室での活動を中心に、フィリピン語、タイ語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、英語、スペイン語のスピーチが行われました。どの子どもも緊張しながらも、日本に来た時の気持ちや将来の夢、家族への思いなどを母語で会場に語りかけました。

多くの学校の先生、支援者、友だちが応援に来られていましたが、今年は例年以上に保護者の参加が多く、子どもたちが生き生きと活躍する姿を、保護者が楽しみにしている様子がよく分かりました。中学2年生の男の子の「おかあ



さんはいつもぼくだけが家族の希望だと言います。おかあさん、大好きです」と言うスピーチを聞いて、涙を流す母親の姿もありました。そんな母親を見て、ちよつと照れていたその子の笑顔が印象的でした。

またタイ母語教室は「母の日」の歌(タイの母の日は8月12日)を歌っておかあさんに感謝の花をプレゼントし、フィリピン母語教室は楽しいダンスで会場を盛り上げました。ワールドトークは多文化の子どもたちが集まり、交流ができる大切な場所です。この場で自信をつけた子どもたちが、さらに生き生きとパワーアップする事を期待しています。(R. Y)

『こどもひろば初めて体験ツアー』

～ みんなでいっぱい遊んだよ～

大阪国際交流センターで、毎週月曜日の夕方から活動する「こどもひろば」が7月21日と8月10日に、「こどもひろば初めて体験ツアー」を開催しました。7月21日は小・中学生が対象で、あべのスポーツセンターでボランティアもあわせて27名の参加でした。自己紹介をしながらのボールころがしから始まり、大人の書く尻文字を子どもが当てたり、



また色々な国の言葉による伝言ゲーム、正解者への賞品付き〇×クイズなどで盛り上がりました。まだ日本語が十分理解できない子もいる中、身体を一緒に動かすことでみんな仲良くなることができ、楽しく遊べました。

一方、8月10日は高校生以上を対象で、こちらも27名の参加があり大阪府泉南郡岬町の青少年海洋センターに行きました。ここでは4つのグループに分かれ廃タイヤと板、ロープを使ったいかだの組み方を教わり、一艘のいかだを組み上げました。いかだを海に浮かべ早漕ぎ競争をしたり、放り投げ

られたボールを集めたりとみんなでびしょびしょになりながら遊びました。海に飛び込んではいけないと注意されても満面の笑みで何度もわざと落ちる子や、へとへとになりながらも一生懸命漕ぎ続ける子など、初めてのいかだ遊びを堪能しました。このあとはバーベキューで昼ごはん、海岸で海水浴と、海を満喫した1日になりました。「僕、海に行くのは初めてやねん。せやからすごくうれしい」と言っていた子の、はじけるような笑顔が今も思い出されます。(H. K)



編集部より

私たちが日ごろ接する目の前の子どもたちの状況をより深く理解するため、在日外国人をとりまく環境を、ときには少し視野を広げてながめてみることも必要ではないでしょうか。このたび、「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」(移住連)で外国人移住者の支援をされている徳島大学の樋口先生に、3回シリーズで論文を寄稿いただけることになりました。第2回はいわゆる「ニューカマー」の高校進学、第3回は保護者の状況について書いていただく予定です。

国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境 (1)



「在日コリアンと就職差別」

樋口直人(徳島大学 総合科学部准教授)

在日コリアンは、いくら勉強して進学しても就職差別という壁にぶつかってきた。一方で、近年では就職差別が緩和されてきたともいわれているが、実際はどうなのか。今号から3回に分けて、在日外国人の教育と社会環境の変化について、国勢調査データをもとにみていくが、今回は在日コリアンの職業分布から上記の問いに答えていきたい。

在日コリアンで商売を営む人が多い背景の1つには就職差別があるが、自営業に従事する人の比率は年々低下している。図1は、韓国・朝鮮籍の人が自営業に従事する比率が、1990-2005年の間に世代ごとにどう変化するかを示す。やや煩瑣な図だが、まず自分と年代からみるとイメージしやすい。たとえば1969年生まれの筆者なら、グラフの66-70年をみれば自分と同じ歳の人があるような特徴を持つのがわかる。90年・20代前半時の自営業従事比率は2%に満たないが、05年・30代後半時には7%まで上がるという具合にみればよい。こうして世代ごとの変化をみると、自営業比率が低下した背景として2つの点を指摘できる。

第1に、若年層(66年以降に生まれた人)の自営業離れが進んでいる。それまで30代~40代後半が自営業主となる「適齢期」であり、団塊世代の人たちは50歳になると2割が自営業主になったが、若年層では一割以下で頭打ちになる可能性が高い。第2に、自営業の中核だった団塊およびその下の世代でも、自営業離れがみられる。団塊世代の自営業主比率は、95年の21%がピークで05年には15%まで低下した。具体的な数値は割愛するが、これは廃業したがゆえの低下であり、50代の失業者が急速に増えている。つまり、在日コリアンの経済を支えてきた自営業の雇用吸収力が低下した結果、中高年層が職を失うという深刻な状況が生まれている。

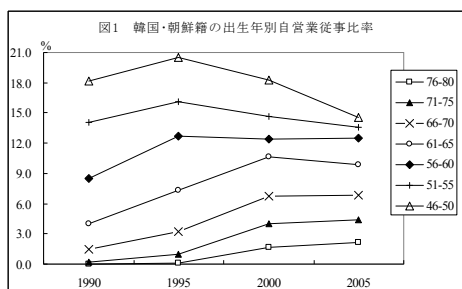


図1 韓国・朝鮮籍の出生年別自営業従事比率

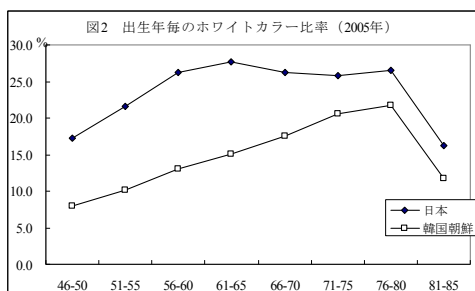


図2 出生年毎のホワイトカラー比率(2005年)

若年層の場合、自営業離れの原因は別のところに求められる。図2は出生年ごとのホワイトカラー(事務・管理・専門職)比率をみたものだが、若くなるにつれて日本籍と韓国・朝鮮籍の差が縮まっているのがわかる。産業構造が変化してホワイトカラーは全体として増えているが、日本籍よりも韓国・朝鮮籍のほうが若年層のホワイトカラーの伸び率が高い。特に70年代生まれになると、まだ格差はあるものの日本籍との差が大きく縮小した。ホワイトカラーである若年ニューカマー韓国人の影響を除いても、若年層の状況は日本人にかなり近づいたといえるだろう。

まとめると、在日コリアンに対する就職差別がなくなったわけではないが、年を追うごとに状況が良くなっているとはいえる。若年層にとっては、自営業に頼らなくても仕事を探せるようになっていく訳であり、職業選択の幅は確実に増加した。しかし、これまで自営業で身を立ててきた中高年層の内、商売が成り立たなくなって失業へと追い込まれる者が増えている。在日コリアンの民族経済は全体として縮小しつつあり、それがもたらす結果は年代によって異なるが、中高年が割を食っているのが現状である。(つづく)



『トッカビ』 (八尾市)



トッカビは八尾市で、1974年にコリアンルーツの子ども達・青年を中心に活動が始まりました。90年代に入り、いわゆるニューカマーと呼ばれる中国やベトナムなどにルーツを持つ人たちが定住するようになり、それに伴ってさまざまなルーツを持つ子ども達がトッカビに集うようになりました。トッカビはもともと、「トッカビ子ども会」という名称で活動を続けてきました。しかし、外国にルーツをもつ人たちの社会的困難は子ども達に限るものではありません。それ以前から大人を対象としても活動をしてきましたが、「子ども会」とつくことで活動が狭義に捉えられてしまう懸念があるため、2008年に名称から「子ども会」を省きました。そして、子どもだけではなく大人も含めて、外国にルーツを持つ人々が、異なる社会的・文化的背景などを隠したり、否定したりすることなく、肯定的に受け止め、豊かに感じられる社会環境を築くことを目指して活動しています。

会の発足当初から外国にルーツを持つ子ども達の学力保障・進路保障に関しては重点的に活動していましたが、一時中断していた時期もあり、2002年トッカビがNPO法人化した事を機に、現在のようなスタイル(毎週土曜日の夕方)で勉強会を再開しました。加えて当時中学3年生の中国ルーツの生徒が、12月の半ばに「やっぱり高校に行きたい」と話したことも再開の大きなきっかけの一つです。彼女は、日常会話は問題ないのですが、授業での言葉がわからず勉強が理解できなくなっていたのです。そのため学校に定着せず、進路にも希望を持つ事が出来なくなっていたのです。彼女の話聞いて、大学生などにボランティアを呼びかけ、勉強会を始めました。その結果彼女は無事志望高校に合格、その後、口コミで生徒が集まりました。勉強会には日本語がまだ十分理解できない生徒、日常会話はできても学習言語になると理解するのが大変な生徒、日本語に関しては何の問題もなく理解できる生徒と、さまざまなレベルの生徒が参加しています。そんな中、教科学習ももちろん大事なのですが、家や学校のできごとや、自分のルーツについて話したり一緒に考えたりと、トッカビは居場所としての役割も大切にしています。基本的には中学生を対象としています。高校に入って勉強についていけないからという理由で参加する高校生もいます。思い出したように、勉強会の様子を見に来る大学生もいます。現在ボランティアで関わっている大学生には、この勉強会の卒業生もいます。彼のように、教わる側から、教える側へと立場が変わっての関わりは非常にうれしいことです。最初は勉強を教える姿もぎこちなかったのですが、だんだん慣れてきました。居場所的な部分を求めて参加している生徒に対して、最初は生徒の話をつくり聞きながら、その生徒が興味を持つ問題を出しつつ勉強につなげてみたり、自分のルーツや名前について話したりしている姿も見られるようになりました。

外国にルーツを持つ生徒が、自分の進路を諦めたり投げやりになったりするのはなく、仲間と共に自己肯定感を育めるような場所としての勉強会を続けていきたいと考えています。 (特定非営利活動法人トッカビ 金峰健)

連絡先 〒581-0081 大阪府八尾市南本町7-6-23(JR大和路線八尾駅より徒歩10分)
TEL 072-993-7860 FAX 072-993-7850 E-mail tokkabiya@ybb.ne.jp

街かど人物館

外国人の子に恩返し

大学でスペイン語を学び、卒業後にベルギーで約3年間住んだ村上(よりこ)さん(60)は昨年、特定非営利活動法人(NPO法人)おおさか子ども多文化センター(大阪市)を仲間と設立し、理事長に就いた。活動の一つは、来日した外国人の子供らの日本語・母国語教育の支援だ。

子育てが一段落した約15年前、「海外では現地の人にお

日本語・母国語 習得後押し

世話になった。恩返しをした」と思っていたところ、友人に誘われ、外国支援団体に参加。語学力を高め、ベルギー人の小学生に週2回、日本語や算数を教えた。通信講座で教員免許も取得した。

9年前にベルギーの学校を訪れた際、帰国した子供が母国語を満足に使用できず苦しんでいる姿を目にした。「幼い子供は、日本語ばかりか母国語の読み書きの習得も中途半端になってしまふ」と問題の深さを実感したという。

同センターは教育委員会などから相談を受けると、日本語と母国語を教えられるボランティアを派遣し教育環境を整える。「子供は、国籍がどこであっても社会の宝です。その思いを胸に活動をするつもりだ。」

NPO理事長村上さんが日本経済新聞に紹介されました！

日本経済新聞10月1日(月)付け朝刊38面の『街かど人物館』に村上さんが紹介されました。村上さんが当NPOを設立された経緯や、ご自身が外国人の子どもたちの支援に関わったきっかけ、その思いなどが書かれています。掲載日にはさっそく全国からメールが送られてきたそうで、村上さん自身は気恥ずかしさでいっぱいなのですが、その反響の大きさにはびっくりしたとのこと。 (Y.H)



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑦「オアハカ」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

コスタリカから帰りオアハカに行ってきました。オアハカはメキシコシティから南西にバスで約6時間半。世界遺産にも指定されている中央アメリカ最古の遺跡モンテ・アルバンがあることのほか、多くのインディヘナ(先住民)の村があり、今もなお昔ながらの暮らしを営んでいることで有名です。街の中心はサントドミンゴ教会をはじめとして、たくさんの教会やカテドラルがあり、活気あふれるにぎやかな街です。ウイプルというそれは美しい刺繍をあしらった民族衣装を着ている女性たちを見ることができるのもここならではの。

先住民の村オコトランで市が開かれると聞き、行って見ました。オアハカからバスで45分のこの村の市は今まで見たことがないほど大きなものでした。果物や野菜はもちろんのこと、日用品や民芸品、革製品や生きたヤギ、七面鳥まで売っていました。また、チャプリンというバッタのような昆虫のから揚げが皿にてんこ盛りにしてあり、食べてみると勧められました。最初はちょっとしり込みしたのですが、ええいままよと食べてみると、これがカリカリと香ばしく結構いけるのです。ビールのつまみに丁度いいのではと思いました。またそのとなりでは日本の2倍はあろうかというよく育った大きなキャベツが山積みで売られていました。ここでキャベツを8個も買うおばあさんがいたので、何か商売でもしているのかとたずねると、明日が息子の結婚式なのだとうれ



しそうに答えてくれました。マグラデレナと名乗ったその彼女にお祝いを言いながら、年を聞いてみました。私は75歳くらいかなと思ったのですが、なんと55歳だということです。もうびっくりしてしまいました。たくさんの子どもの世話(先住民の女性は平均8人の子どもを産むといわれています)、掃除、洗濯に主食のトルティージャづくり、畑仕事に、その合間の民芸品づくりなど、彼女たちの労働の厳しさがこんなにも早くマグラデレナを老けさせてしまったのかと、大きな袋にキャベツを入れて

帰っていく彼女を見送りながら胸が痛みました。そして、どうか明日は楽しい結婚式になりますようにと祈らずにはいられませんでした。

次の日は、別の先住民の村サアチラに行きました。ここはオアハカからバスで30分。ミステカ人とサポテカ人が住むというとても静かな村でした。ぶらぶらと歩いていると大きな庭のある家でトランポリンで遊んでいる子どもが2人。その庭には立派なナシミアント(イエスが生まれた情景を人形で表したモニュメント)がありました。ここで写真を撮らせてもらうよう頼むと快く引き受けてくれ、子どもたちと話し込んでいると、父親のマリオが帰ってきました。そして、ファミリーで食事をするので食べていけないかと誘ってくれました。なんと親切な人のだろうと感激しながら、おいしいセビツェ(魚介類の酢の物)やカルネ・アサーダ(焼き肉)をいただきました。ここサアチラでもどんどん混血が進むなか、マリオは純粋のサポテカ人だということを聞きびっくりしました。というのは、紀元前500年頃から紀元後800年ごろまでの1300年間モンテ・アルバン遺跡はサポテカ人が創ったサポテカ文化の中心として機能していたのです。はっきりした文字体系を持っていたサポテカ文化は多くのサポテカ文字を刻んだ石碑や土器や壁画を残し、現在それらの解読作業が進んでいるということです。今から2500年も前に文字を持ち、最盛期には2万5千人にも及ぶ人口を有しながら、盛んな社会活動をしていた、そんなサポテカ人の純粋な末裔が目の前にいるのかとおもうと、サアチラ王朝を描いた絵文書で見た王様の顔とマリオの浅黒い精悍な顔がだぶって見えたりして、ちょっと感動してしまったのです。

次の日、小高い丘の上にあるモンテ・アルバン遺跡に行きました。ピラミッドの上に立ち、さわやかな風にふかわれていると、どこからともなくマリオに似たたくさんの人たちが現れ、大通りを行き来し始めました。私はしばしタイムマシンに乗って2500年前の世界に飛んで行ったのでした。



イベント情報 (1)

▼ 多言語進路ガイダンス

府内にいる外国から来た中学生が府立高校に進学する際に必要な情報や、それぞれの高校についていろいろな説明を受けることができます。

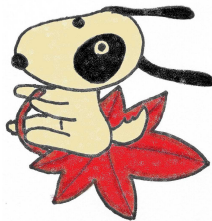
地 区	開催日	時 間	会 場
豊能地区	11月 3日(祝)	13:00～16:00	とよなか国際交流センター
三島地区	11月11日(日)	13:30～16:30	山田夢つながり未来館
北河内地区	10月14日(日)	13:00～17:00	交野市立岩船小学校
中河内地区	11月 1日(木)	19:00～20:30	八尾市役所大会議室
	11月 5日(月)	16:30～18:00	八尾市立教育サポートセンター
	12月 8日(土)	10:30～15:00	イコーラム(希来里)
南河内地区	10月28日(日)	13:00～16:00	富田林市役所4階会議室
	11月11日(日)	13:00～16:00	富田林市役所4階会議室
泉北地区	10月28日(日)	13:30～16:00	堺市立堺高等学校
泉南地区	10月21日(日)	13:30～16:00	府立佐野高等学校

この表の日時は予定です。参加される場合は、必ず以下の機関に問い合わせと申し込みをして下さい。

在住地区の教育委員会、あるいは
大阪府教育委員会事務局市町村教育室 小中学校課 進路支援グループ
TEL 06-6941-0351(内線 3504)

▼ 中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜実施校(いわゆる特別枠校)の公開授業日程

この秋、渡日生(外国人生徒)対象の日本語、母語、教科の取り出し授業などが二つの高校で公開されます。いずれも、学校の教員、研究者、大学生、ボランティアその他、日本語教育や外国人教育に興味のある方を対象としています。



10月25日(木) 大阪府立門真なみはや高等学校

時間 : 1時間目～5時間目(8:40～14:10)

詳細はこちら <http://www.osaka-c.ed.jp/kadomanamihaya/>

11月21日(水) 大阪府立長吉高等学校

時間 : 1時間目～4時間目(各100分授業 8:45～16:40)

詳細はこちら <http://www.osaka-c.ed.jp/nagayoshi/index.html>

～ NPO おおさかこども多文化センターのホームページが新しくなります ～

NPOのホームページが11月から新しくなります。当面は旧URLでも旧ホームページにアクセスできます。

新しいホームページは会員のM.Hさんによりデザインなど全く最初から作り直していただきました。

旧ホームページでは多くの制約がありました。新しいHPは非常に使い勝手がよく、多くの機能を利用できるよう構築していただきました。アクセスしていただければおわかりと思いますが、私たちNPO おおさかこども文化センターにふさわしいホームページを作っていただいたと思っています。マスコットの「ころちゃん」があちこちに登場します。「お気に入り」などに登録いただければ幸いです。M.Hさん、誠にありがとうございました。

新 URL <http://okotac.org/>



イベント情報 (2)

～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

▼ キリン福祉財団助成金事業

『日本語を母語としない親子の社会見学』

母語とやさしい日本語を通じて、生活に必要な情報を正確に知ることや、親子一緒に同じ体験をすることで、会話を楽しむことなどを目的とした企画です。第4回目は江戸時代の大阪の町並みを再現し、住まいの歴史と文化をテーマにした、日本で初めての専門ミュージアム、大阪くらしの今昔館に行きます。昔の大阪を体験してみたい親子のみなさん、参加しませんか。きものを着る体験もありますよ。

日時：2012年12月9日(日) 13:00～15:30

場所：大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館(大阪市北区天神橋6丁目4-20)
地下鉄谷町線及び堺筋線「天神橋筋六丁目」駅下車すぐ

集合：13:00 大阪くらしの今昔館8階 受付付近

参加費：無料 申し込みできる人：日本語を母語としない親子 12組(先着順)

主催：おおさかこども多文化センター

参加を希望される方はMailかTEL、FAXで申し込んでください。

Mail：osakakodomo@gmail.com TEL/FAX 06-6586-9477

担当者：橋本(はしもと)、安田(やすだ)、村上(むらかみ)

スタッフ紹介(1) 当NPOも活動を始めて1年余りたちました。今回から編集、事務局スタッフを紹介します。



橋本義範

今年3月に外国から来た子どもたちの多くを受け入れている府立高校を退職しました。

4月からは、NPO事務局を手伝っています。外国から来た子どもを対象とすることに変わりはありませんが、学校以外の世界に身を置くことは初めてで、日々新しい発見があります。特に感心したことはNPOの企画行事などで接するボランティアのみなさまの前向きで情熱的な活動ぶりです。私も、出来る限りついて行きたいと思っています。

梨木亜紀

学生時代の子どもの権利NGO、パラグアイ在住中の児童福祉施設、出産後は地域の子育て支援グループ、その後の学校派遣通訳… 形を変えながらも何となく常に“子どもの近所”にいたようです(笑)。その中で実感してきた“自分を発揮できる場を見つけた子どもはどれほど大きく成長するか”が、今も活動の根っこにあります。現在中学生2人の母。趣味はベランダ菜園。いま一番ほしいものは、グルメテーブルかけ(ご存じない方は、お近くの子どもさんに聞いてくださいね)。



NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 高砂堂ビル8階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org/> (アドレスが変わりました)

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜ けいけい) 【店番】099
【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

